

自閉症、oxytocin 投与、分娩誘発、陣痛強化、リスク因子、適正診断1

自閉症スペクトラム (autism spectrum disorders, ASD) は広い範囲の発達障害で、その中には自閉症、Asperger 症候群、広範囲発達障害などが含まれる。ASD には遺伝的な背景、周産期のリスク因子や環境因子が関わっている可能性もあるが病因は不明である。oxytocin は中枢神経系において神経伝達物質として作用し ASD のトリガーとして作用している可能性も考えられる。ASD の発現に分娩中の oxytocin の投与が関わっているという仮説も発表されている。Gregory らは出産時の分娩誘発や陣痛強化は自閉症と診断されるリスクが上昇すると述べている。Gregory らの研究においては oxytocin の被曝のみがリスク因子と考えられる患者を抽出したわけではない。Gregory らの研究においては非定型的な症例もみられ自閉症の診断基準には大きな差異があるのも問題である陣痛強化や分娩誘発のために oxytocin の投与を試みても自閉症のリスクを高めるといった根拠は示されていないと考えてよい。

Does augmentation or induction of labor with oxytocin increase the risk for autism?

Anthony M. Vintzileos, Cande V. Ananth

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):502-504

【文献番号】 o11500 (産科統計、妊娠関連事項、分娩関連事項)

細菌性陰症、発現頻度、疫学的調査、人種、系統的レビュー2

Nugent scoring system によって診断された細菌性陰症の一般人における発現頻度を調べるために文献的レビューを行った。細菌性陰症の発現頻度は国や人種間によっても異なるが、一般にアフリカにおいて最も高く、アジアとヨーロッパにおいては最も低いという結果が得られた。しかし、アフリカにおいても一部の地域では細菌性陰症の発現頻度は極めて低く、アジアやヨーロッパでも発現頻度の高い地域も認められた。

The global epidemiology of bacterial vaginosis: a systematic review

Chris Kenyon, Robert Colebunders, Tania Crucitti

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):505-523

【文献番号】 o01700 (妊娠、細菌性陰症、クラミジア、ヘルペス、ウイルス感染、GBS、HIV、感染症、MRSA)

深部子宮内膜症、結腸直腸切除術、便秘、消化器症状、直腸子宮内膜症、シェービング3

直腸の深部浸潤性子宮内膜症と消化器症状との関係は多様で、手術の効果に関しても必ずしも意見の一致は得られていない。炎症が消化管を刺激するためいろいろな消化器症状が発現し、必ずしも病変が直腸に及んでいるわけではないとも考えられている。消化器症状はしばしば直腸に結節を伴わない女性にも認められることがある。手術が成功し術中および術後の訴えが解消し、健康状態が改善し骨盤痛も軽減したとしても、いくつかの不愉快な消化器症状が消失しない例や手術後に新たに消化器症状が発現することもある。腸管の結節、消化器症状および直腸手術などの相互の関係は複雑で、術前の消化器機能の評価を基に最も適切な手術法を選択する必要がある。

Bowel dysfunction before and after surgery for endometriosis

Horace Roman, Valerie Bridoux, Jean Jacques Tuech, Loic Marpeau, Carla da Costa, Guillaume Savoye, Lucian Puscasiu

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):524-530

【文献番号】 r11200 (子宮内膜症、診断、治療、病態、チョコレート嚢胞、合併症)

Friedman 曲線、遷延分娩、分娩停止、診断基準、分娩管理法6

正常な分娩の進行に関してわれわれの今までの理解を危うくするような新たな根拠が得られている。Friedman 曲線を用いて正常あるいは異常という判断がほぼ40年間にもわたって試みられてきた。2002年、Zhang らは分娩第1期の正常とされる進行パターンの今までの考えは間違っていると指摘した。一般的な初回帝王切開の上昇をもたらす理由は異常分娩あるいは分娩停止という判断が関わっている。Zhang らが報告した正常と考えられる分娩曲線は Friedman らの曲線とは異なっているが、その背景には評価の方法が関わっている。分娩中の女性では2~3時間ごとに診察するとされているが、最近では頸管が6cm までは間隔をあけるべきであると考えられている。

分娩第1期の進行状況は、その患者の状況、あるいは臨床的な対応などによっても異なってくる。分娩第2期においていきみを遅らせることによって自然経膈分娩の割合は上昇し、合併症が減少したと報告されている。遅延いきみでは臍帯血の pH が異常と判定される割合は上昇するが、それが直ちに児にネガティブな影響をもたらすことはない。分娩の管理に関して従来と異なる考えが示されているがその妥当性を適切なデザインの大規模な調査によって確認する必要がある。

Labor in 2013: the new frontier

Alison G. Cahill, Methodius G. Tuuli

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):531-534

【文献番号】 o12700 (分娩管理、分娩指導、妊産婦指導、女性保健、公衆衛生)

過多月経、費用対効果、QOL、子宮摘出、LNG-IUS8

過多月経をみた患者においてLNG-IUSを用いた群と子宮摘出を試みた群においていずれも健康に関わるQOLは改善し、その改善の状態は治療開始後5年間は顕著であった。多くの女性は子宮摘出を受けたがLNG-IUSを試みる方が費用対効果の面で優れている。

Quality of life and costs of levonorgestrel-releasing intrauterine system or hysterectomy in the treatment of menorrhagia: a 10-year randomized controlled trial

Satu Heliovaara-Peippo, Ritva Hurskainen, Juha Teperi, Anna-Mari Aalto, Seija Grenman, Karoliina Halmesmaki, Markus Jokela, Aarre Kivela, Eija Tomas, Marjo Tuppurainen, Jorma Paavonen

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):535.e1-535.e14

【文献番号】 r12600 (生殖医学、内分泌学、基礎的研究)

ドプラー検査、IUGR、連続的变化、臍帯動脈12

従来の報告とは対照的にIUGRを認めた妊娠例を対象に大規模な前方視的調査を行った結果、ドプラー検査で認められた異常パターンは多様であることが明らかとなった。いろいろな血管を対象にドプラー検査を行うことはIUGRの児の分娩のタイミングを計る方法として有用である。今回得られたデータは介入に関わる臨床試験を計画する上で極めて有用である。

Predictable progressive Doppler deterioration in IUGR: does it really exist?

Julia Unterscheider, Sean Daly, Michael Patrick Geary, Mairead Mary Kennelly, Fionnuala Mary McAuliffe, Keelin O'Donoghue, Alyson Hunter, John Joseph Morrison, Gerard Burke, Patrick Dicker, Elizabeth Catherine Tully, Fergal Desmond Malone

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):539.e1-539.e7

【文献番号】 o04600 (胎児心拍モニタリング、血液ガス、血流動態、胎児切迫仮死、オキシメトリー)

早産児、胎児炎症反応症候群、気管肺異形成、脳室内出血、新生児敗血症、脳室周囲白質軟化症..... 15

早産児において胎児炎症反応症候群は新生児のネガティブな臨床結果をもたらすリスク因子となる。とくにIL-6が11pg/ml超となり分娩週数が早い場合には重度新生児合併症や新生児死亡のリスクは上昇する。

The fetal inflammatory response syndrome is a risk factor for morbidity in preterm neonates

Nora Hofer, Radhika Kothari, Nicholas Morris, Wilhelm Muller, Bernhard Resch

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):542.e1-542.e11

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

子癇前症、早発型子癇前症、遅発型子癇前症、臨床結果、リスク因子20

早発型子癇前症と遅発型子癇前症においては病因に関わる因子は共通しているがいくつかのリスク因子には差異が認められ異なった臨床結果をもたらす。この2つのタイプの子癇前症は病因学的に、また予後の点から見て異なった範疇に属するものと考え対応する必要がある。

Incidence of preeclampsia: risk factors and outcomes associated with early- versus late-onset disease

Sarka Lisonkova, K.S. Joseph

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):544.e1-544.e12

【文献番号】 o02200 (妊娠中毒症、妊娠高血圧、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

頸管長、早産、スクリーニング、超音波検査22

頸管長のスクリーニングを行う際に、最初に経腹的超音波検査を行う方法と比較し、一律に経膈超音波検査はいろいろな条件下において費用対効果の面で優れているという結果が得られた経腹的超音波検査の精度などを最適化するか、リスクの低い患者にのみ適用するなどの戦略を採用することによって、最初に経腹的超音波検査を行うことで費用対効果を高めることができる可能性も考えられる。

Cost-effectiveness of transabdominal ultrasound for cervical length screening for preterm birth prevention

Emily S. Miller, William A. Grobman

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):546.e1-546.e6

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

ICU、リスク因子、重度急性母体合併症、対応戦略.....24

2010～2011年に重度母体合併症のためにICUへ入院した妊婦および褥婦のリスク因子を学際的チームが調べたところ、48%は回避可能であったと判定された。地域の妊産婦に対する保健サービスの改善を目指すことが最優先課題であることが確認された。

Review of contributory factors in maternity admissions to intensive care at a New Zealand tertiary hospital
Lynn C. Sadler, Diana M. Austin, Vicki L. Masson, Colin J. McArthur, Claire McLintock, Sharon P. Rhodes, Cindy M. Farquhar
Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):549.e1-549.e7

【文献番号】 o10200 (母体死亡、妊産婦死亡、母体合併症)

陣痛抑制、早産、ニトログリセリン、経皮的投与、 β 2アドレナリンレセプター拮抗剤27

ニトログリセリンを経皮的に投与する方法は β 2-adrenergic receptor agonistよりも有効であるが、現在までに得られている根拠によると早産の治療のために陣痛を抑制する方法としてルーチンに使用することは支持されない。さらに、二重盲検無作為対照試験で確認してみる必要がある。

Transdermal nitroglycerin for the treatment of preterm labor: a systematic review and metaanalysis
Agustin Conde-Agudelo, Roberto Romero
Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):551.e1-551.e18

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

初回帝王切開率、年次推移、リスク因子30

初回帝王切開率は2004年から継続し上昇してきている。2005年以降の初回帝王切開率の上昇は分娩成功率の低下によって促されたという結果が得られた。

National trends in primary cesarean delivery, labor attempts, and labor success, 1990-2010
Alan E. Simon, Sayeedha G. Uddin
Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):554.e1-554.e8

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

帝王切開、Pfannenstiel incision、吸収性ステープル、金属製ステープル、費用対効果31

帝王切開においてPfannenstiel incisionを試み手術創の閉鎖に金属製ステープルを用いた群と吸収性ステープルを用いた群において術後疼痛に差は認められなかった。吸収性ステープルを用いた方が操作時間は延長し費用は有意に上昇した。

A randomized trial comparing metallic and absorbable staples for closure of a Pfannenstiel incision for cesarean delivery
Catherine A. Feese, Steven Johnson, Emily Jones, Donna S. Lambers
Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):556.e1-556.e5

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

頸動脈内膜 - 中膜複合体厚、円周方向壁応力、膨張性、下大静脈、崩壊性、子癇前症32

早発型子癇前症と遅発型子癇前症において血管壁の適応の状態を超音波検査で調べたところ、2群間で差異が認められたことから、両群の病態生理のメカニズムは異なるのではないかと思われる。早発型および遅発型子癇前症の複雑な病因と臨床所見をさらに調査してみる必要がある。

Patterns of maternal vascular remodeling and responsiveness in early- versus late-onset preeclampsia
Iosifina Stergiotou, Fatima Crispi, Brenda Valenzuela-Alcaraz, Bart Bijnen, Eduard Gratacos
Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):558.e1-558.e14

【文献番号】 o02200 (妊娠中毒症、妊娠高血圧、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

妊娠糖尿病、胎盤、ビタミンD34

ビタミンDの欠乏は妊娠糖尿病と相関があるという結果が得られた。25(OH)DはCYP27B1酵素によって水酸化され活性型の1,25(OH)₂Dに変換される。一方、CYP24A1酵素は25(OH)Dと1,25(OH)₂Dを不活性型に変換する作用がある。胎盤においてCYP24A1の活性の上昇が妊娠糖尿病の患者におけるビタミンDの欠乏に関わっている可能性が示唆された。

Vitamin D deficiency in gestational diabetes mellitus and the role of the placenta
Geum Joon Cho, Soon-Cheol Hong, Min-Jeong Oh, Hai-Joong Kim
Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):560.e1-560.e8

【文献番号】 o03100 (妊娠糖尿病、妊婦管理)

BMI、試験分娩、肥満、経膈分娩、帝王切開、リスク因子.....36

試験分娩を試みた初産婦で極度に肥満の女性においては、BMIは帝王切開の独立した予測因子となりBMIの上昇に伴って帝王切開率は上昇した。母体の肥満に伴って試験分娩が不成功に終わるメカニズムは不明である。

Predictors of failed trial of labor among women with an extremely obese body mass index

Ravindu P. Gunatilake, Michael P. Smrka, Benjamin Harris, Daniel M. Kraus, Maria J. Small, Chad A. Grotegut, Haywood L. Brown

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):562.e1-562.e5

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

分娩合併症、感染、産科、ケアの質、血栓症.....37

感染症や血栓症の発現率には病院間でかなりの差が認められ、教育病院か否かによっても差が認められた。感染と血栓症という2つの因子は入院患者における産科的ケアの質を評価する有用なマーカーとなると思われる。

Variations in postdelivery infection and thrombosis by hospital teaching status

Sindhu K. Srinivas, Corinne Fager, Scott A. Lorch

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):567.e1-567.e7

【文献番号】 o12301 (産科関連事項)

子癇前症、心血管疾患、リスク因子、血管内皮機能障害、内膜中膜複合体厚.....38

それまで健全であった女性における子癇前症の発現は妊娠後10年を経た時点での上腕動脈における血流依存性血管拡張テスト (FMD) で異常を認めるリスクや頸動脈の血管内膜中膜複合体厚 (IMT) 測定で肥厚を認めるリスクとは相関しなかった。しかし、子癇前症は早期の血管内皮の機能障害に関わる血中のマーカーの変化と相関した。

Preeclampsia in healthy women and endothelial dysfunction 10 years later

Miriam Kristine Sandvik, Elisabeth Leirgul, Ottar Nygard, Per Magne Ueland, Ansgar Berg, Einar Svarstad, Bjorn Egil Vikse

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):569.e1-569.e10

【文献番号】 o02200 (妊娠中毒症、妊娠高血圧、腎機能障害、胎盤剥離、子癇、リスク因子)

癌、リスク因子、子宮内膜癌、肥満、過体重.....42

子宮摘出を受けた女性において子宮の悪性腫瘍とBMIの上昇に有意な直線的な相関が認められた。このような結果は、比較的僅かな体重の増加でも癌のリスクの上昇をもたらすことを示唆するものである。アメリカの女性のBMIの平均値は26.5であるが、半数以上が今回対象となった女性の過体重あるいは肥満のレベルにある。従って、今回の結果は過半数の女性に関係する問題である。体重の管理は重要で、それによって健康を維持し癌のリスクの低下も図ることができるのではないかと思われる。

The risk of uterine malignancy is linearly associated with body mass index in a cohort of US women

Kristy K. Ward, Angelica M. Roncancio, Nina R. Shah, Mitzie-Ann Davis, Cheryl C. Saenz, Michael T. McHale, Steven C. Plaxe

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):579.e1-579.e5

【文献番号】 g02600 (子宮内膜癌、子宮体部腫瘍、子宮内膜増殖症、子宮肉腫、子宮内膜過形成)

単胎妊娠、双胎妊娠、高次多胎妊娠、医療費.....43

双胎妊娠に関わる費用は単胎妊娠と比較し約5倍上昇し、3胎以上の高次多胎妊娠例においてはほぼ20倍も上昇するという結果が得られた。

Healthcare expenses associated with multiple vs singleton pregnancies in the United States

Elkin V. Lemos, Dongmu Zhang, Bradley J. Van Voorhis, X. Henry Hu

Am J Obstet Gynecol.2013 Dec;209(6):586.e1-586.e11

【文献番号】 o07300 (多胎妊娠/多胎分娩関連事項)